

# ワークショップ活動報告書

昭和・平岡地区

(景観まちづくりワークショップ実施委託報告書)

平成 20 年 12 月

袖ヶ浦市

ワークショップ活動報告書

(景観まちづくりワークショップ実施委託報告書)

平成 20 年 12 月

編集・発行: 袖ヶ浦市 都市部 都市計画課

# 第 1 章 業務の目的、概要等

## 1-1 業務の目的

本業務は、景観まちづくりにおける地域活動のあり方を検討することを目的とする。

具体的には、平成 18 年度に景観まちづくり地域別構想を策定した 5 地区から 2 地区をモデル地区に選定し、市民から参加者を募ってワークショップを開催する。ワークショップにおいて、参加者と協働で「まちあるき」「景観資源マップの作成」等の社会実験を行い、地域活動のあり方を検討するものとする。

| 平成 17 年度  | 平成 18 年度   | 平成 19 年度                               | 平成 20 年度<br>(今年度)                             | 平成 21 年度<br>以降 |
|---|--|--|---|----------------|
| 景観まちづくり<br>基本構想                                     | 景観まちづくり<br>地域別構想                                 | 景観まちづくり<br>ワークショップ<br>開催               | 景観まちづくり<br>ワークショップ<br>開催                      | 景観基本計画         |
| ・景観まちづく<br>りに対する市民<br>アンケート<br>・景観基礎調査<br>の実施<br>など | ・地区別にワー<br>クショップ開催<br>(5 地区)<br>・合同ワークシ<br>ョップ開催 | ・長浦地区でワ<br>ークショップ開<br>催。景観資源マ<br>ップづくり | ・昭和、平岡地<br>区でワークショ<br>ップ開催。景観<br>資源マップづく<br>り | ・予定            |

## 1-2 モデル地区

### (1) モデル地区の選定

モデル地区は、昨年度景観まちづくりワークショップを実施した長浦地区を除いて、これまでの調査やワークショップの実施等を踏まえて、平成 18 年度に景観まちづくり地域別構想を策定した 5 地区から 2 地区を選定する。選定にあたっては、昨年度設定した選定指標に準拠する。

#### ①選定指標

モデル地区の選定については、上位関連計画の取り組み姿勢等により、以下の「重要性、即効性、必要性、先導性」の 4 つの選定指標を設定する。

| 選定区分 | 選定内容  | 選定基準  |
|------|---|---|
| 重要性  | 関連計画や関連事業等が進んでおり、これらと連動することで、景観まちづくりが発展しやすい                             | ○ 都市計画マスタープランで核の位置づけがされている<br>○ 都市再生事業や区画整理事業、地区計画等の計画や事業が進んでいる   |
| 即効性  | 現在、景観まちづくりに関係するボランティア活動等が行われていたり、キーマンとなる人がいたりするなど、すぐに地域のまちづくり活動へ繋がりがやすい | ○ 「水と緑の里」等の景観まちづくりに関係するボランティア活動がある<br>○ 平成 18 年度の景観まちづくり地域別ワークショップで先導役となりうるキーマンが見つまっている                       |
| 必要性  | アンケート調査や現地調査の結果より、住民意向や問題意識が高く、景観まちづくりに取り組む必要性が高い                       | ○ アンケート調査(平成 17 年度)で景観まちづくり活動への参加意欲が高い<br>○ 現地調査から地区の課題や問題点が多い  |
| 先導性  | 景観まちづくりへの住民の意識が高く、取り組み対象地(候補)が多くの人に利用される場所である等、継続的な景観まちづくりが期待できる        | ○ 景観検討委員会(平成 17 年度～平成 18 年度)や景観ワークショップ(平成 18 年度)への参加が多い<br>○ 重点的な取り組み内容として想定される場所が、多くの人利用が想定されるなど他地区への波及効果が高い |

## ②モデル地区の選定

①の選定指標に基づき各地区について 3 段階評価を行い、以下に整理する。総合評価では昭和地区、平岡地区が長浦地区に次いで「○」となった。また、選定に当って長浦地区と異なる傾向の景観かどうかも重要である。

昭和地区は都市景観が中心であり、指標の中でも「重要性」「先導性」が高く、関連計画の進捗とともに景観まちづくりの推進が期待できる。また、平岡地区は自然景観・農村景観が中心であり、「即効性」「先導性」が高く、速やかな景観まちづくりの推進が期待できる。こうした傾向は昭和地区、平岡地区の間で大きく異なり、また、長浦地区とも異なることから、両地域はモデル地区として有効と考えられる。以上より、本業務では「昭和地区」「平岡地区」をモデル地区に選定する。

|         | 重要性       |           | 即効性      |            | 必要性          |      | 先導性  |            | 総合 |
|---------|-----------|-----------|----------|------------|--------------|------|------|------------|----|
|         | 都市マス<br>1 | 事業計画<br>2 | ボランティア活動 | 地域の<br>まとめ | アンケート調査<br>3 | 現地調査 | 参加状況 | アピール度<br>4 |    |
| 昭和地区    |           |           |          |            |              |      |      |            |    |
| 長浦地区    |           |           |          |            |              |      |      |            |    |
| 根形地区    |           |           |          |            |              |      |      |            |    |
| 平岡地区    |           |           |          |            |              |      |      |            |    |
| 中川・富岡地区 |           |           |          |            |              |      |      |            |    |

- 1 将来都市構造の、商業核、交通結節点、緑の拠点としての位置づけ
- 2 都市再生整備計画、区画整理事業、地区計画、田園空間施設維持管理事等
- 3 平成 17 年度実施一般向けアンケート調査結果(問い 4 お住まいの周辺の景観への好き嫌い、問い 7 景観への関心度、問い 10 景観まちづくり活動への参加意向)
- 4 平成 18 年度の景観まちづくり地域別ワークショップで、提案された社会実験対象地区(袖ヶ浦駅前、長浦駅前、松川、浮戸川、小櫃川)

## (2) モデル地区の範囲、概要

モデル地区の範囲はそれぞれ右図の通りである。また、モデル地区の概要は以下の通りである。

### ①昭和地区

袖ヶ浦駅を中心とした市街地、沿岸部の工業地帯、台地上の住宅地、浮戸川沿いの水田等からなる。市街地や工業地帯の都市景観のほか、坂戸神社や福王神社などの文化財も点在している。地域別構想では、「袖ヶ浦駅前」「浮戸川」「住民・企業の意識啓発」を取り上げ、「景観まちづくりを通して、心にやすらぎを与える」を目標としている。

### ②平岡地区

松川の源流地域に当たり、大半が台地-丘陵地からなる。里山など山林が形成する自然景観と、畑や谷津田などの農村景観が中心である。地域別構想では「ドイツ村」「松川、広域農道」「谷津田、里山」を取り上げ、「地域の景観資源を活かした協働による景観まちづくりをすすめる」を目標としている。



### 1-3 実施概要

前項で選定したモデル地区において、それぞれワークショップを実施する。概要は以下の通りである。

#### (1) 実施日程、期間

日程は参加者の関心を保つため、各回の間隔を2週間程度とし、全4回を短期間で実施する。また、幅広い層の参加を得るため土曜日開催とする。実施時間は初回のみ事務局で設定し、第2回以降は参加者の希望により決定する。

#### (2) 実施場所

実施場所は、昭和地区：袖ヶ浦市役所旧館3階大会議室、平岡地区：平岡公民館とする。まちあるきについては、事務局案を提示し、参加者との協議により実施場所を決定する。

#### (3) 参加者

参加者は、過去に実施した地域別景観まちづくりワークショップ、長浦地区景観まちづくりワークショップ等の参加者への案内状送付と、広報・ホームページへの一般公募掲載により行う。定員は15名とする。

#### (4) 実施内容

実施内容は、長浦地区景観ワークショップの内容を踏まえ、事前に以下のような予定で設定する。ただし、地域性や議論の内容に応じて微調整して進める。また、「まちあるき」「景観資源マップ」以外にも、地域活動の検討に必要なと思われる作業を適宜参加者に提供し、参加者が景観に関わったという達成感を得られるようにする。

##### ①第1回

- ・昨年度（及び前に実施した地区）のおさらい（事務局説明）
- ・今年度の目的、スケジュールの説明（事務局説明）
- ・第2回の「まちあるき」の実施場所について議論
- ・「まちあるき」で探索する地域の景観資源、課題等について議論

##### ②第2回

- ・「まちあるき」の実施
- ・「まちあるき」をしながら、地域の景観資源、課題等を探索

##### ③第3回

- ・第2回で歩いたルート上の景観資源、課題等について意見出し
- ・上記に基づいて「景観資源マップ」の作成を事務局で進める

##### ④第4回

- ・景観資源マップ等、ワークショップ成果物の確認作業
- ・来年度（または次に実施する地区）以降の景観まちづくりや地域活動について議論

#### (5) 実施報告

各回終了後、参加者全員に実施報告を送付し、欠席の場合もその次の回に出やすいよう配慮する。

#### (6) ワークショップの成果物

「まちあるき」に基づく地域の景観資源・課題等について、「景観資源マップ」をまとめ、公共的な場所にて配布し、景観まちづくりの普及啓発に資するものとする。

## 第2章 ワークショップの実施

### 2-1 昭和地区

昭和地区では、長浦地区と同様に「まちあるき」「景観資源マップ」を通じた社会実験を行った。加えて、土木課が担当する「袖ヶ浦駅前線電線共同溝整備事業」において、「美しい都市景観の創出」が方針の一つとなっていることから、土木課のご協力のもと、景観まちづくりワークショップで袖ヶ浦駅前線の景観をどのように整備していくべきかアイデア出しを行うこととなった。

#### (1) 第1回 昭和地区景観まちづくりワークショップ

##### ①開催概要

■開催日時：7月12日(土) 9:30～11:30

■開催場所：袖ヶ浦市役所 旧館3階大会議室

■参加者（敬称略）

| A チーム | B チーム |
|-------|-------|
| 大森雅彦  | 稲毛博夫  |
| 遠藤一男  | 篠崎龍夫  |
| 若本重男  | 飯島久枝  |
| 藤井幸光  | 馬場元則  |
| 田代哲郎  | 尾高幹男  |



ワークショップの様子

##### ■開催プログラム

- ・委託業者が開会を行い、及川都市計画課長から挨拶をした。事務局の紹介を行い、今日のプログラムについて説明した。
- ・これまでのおさらいでは、平成17年度からの景観まちづくりの経緯、昨年度の長浦地区ワークショップの概要をパワーポイントにて説明した。
- ・今年度の取り組みでは、事務局案をパワーポイントにて説明した。その後、土木課より「袖ヶ浦駅前線共同溝整備事業」について説明をした。
- ・着席場所から左右に2チームに分かれ、グループ別の作業に入った。また、参加者から一言自己紹介をしてもらった。
- ・次回のまちあるきコースは今回の検討結果をもとに事務局で決定することで了解を得た。

| 次第        | 時間          | 取り組み内容  | 取り組み単位 |
|-----------|-------------|---|--------|
| 事前準備      | 9:00        | 事務局集合   |        |
|           | 9:00～9:10   | 事務局ミーティング   |        |
|           | 9:10～9:30   | 設営  |        |
| はじめに      | 9:30        | 開始  | 全体     |
|           | 9:30～9:35   | あいさつ  |        |
| これまでのおさらい | 9:35～10:00  | ・景観まちづくりの方向性<br>・昭和地区の目標・基本方針<br>・昨年度長浦地区のワークショップ開催概要     |        |
| 今年度の取り組み  | 10:00～11:00 | ・今年度の目的、取り組み内容の説明<br>・土木課より駅前線共同溝整備の説明<br>・一言自己紹介（一人1分以内） |        |
|           | 11:00～11:05 | チーム分け   |        |
|           | 11:05～11:20 | ・昨年度の景観マップについて議論<br>・地図を見ながらチェックポイントを整理<br>・班長決め          | チームごと  |
|           | 11:20～11:30 | ・チーム発表<br>・質疑応答   | 全体     |
|           | 11:30       | 終了  |        |
| 撤収        | 11:30～11:40 | 片づけ・撤収  |        |

## ②検討結果

チーム別の作業では、以下のような意見があがった。

### ■A チーム

#### ▽まちあるきのルートについて

- ・坂戸の森はルートに入れたい。
- ・図書館は市役所からも近いし、市内外からも人が来る顔的な場所なので、見た方が良いのでは。
- ・ルートとしては、駅から中央公園を回りながら率土神社まで行き、坂戸の森・図書館を回ってくるルートが妥当。

#### ▽景観資源マップについて

- ・長浦のようなものでよいが、どのように使われるかを考えることが大事。

▽袖ヶ浦駅前通りの整備について

- ・歩道は、黄色い舗装が良いと思うが、点字ブロックとの色の兼ね合いは検討する必要がある。
- ・街路樹は、近隣住民にとっては清掃等の作業があり、大変である。桜は花が咲く時期は良いが、他の季節は落ち葉等の処理で大変。
- ・これまで市で整備したことがない樹種で象徴性をだすことは面白い。
- ・ハンブやイメージハンブの整備により、車を減速させる仕掛けも必要では。
- ・道路幅員に余裕があるのであれば、歩行者と自転車は分けたい。特に朝夕の自転車利用者は坂道ということもあり、スピードを出して危ない。

■B チーム

▽まちあるきのルートについて

- ・どちらかというと②福王神社ルートのほうがよい。
- ・福王神社のさらに東側、大六天社を含めたい。
- ・坂戸神社も回ったほうがよいのではないかと。余裕があれば①②双方のルートを歩きたい。
- ・ウォーキングの会で歴史に詳しい人がいる。

▽景観資源マップについて

- ・歴史資源がさまざまあるので、裏面は改善策よりも埋もれている歴史資源について取り上げた方がよい。

▽袖ヶ浦駅前通りの整備について

- ・坂道を自転車や高齢者用電動カーが高速で下ってきて危険である。4mの幅広い歩道は必要か？ 4mとるならば対策が必要だ。
- ・落ち葉や落果の問題があり、街路樹はあまりないほうがよい。
- ・とはいえ、樹木は癒しを与えてくれる。
- ・樹木でないにしろ、高齢者が多いので、ベンチや休憩スペースは多いほうがよい。
- ・駅前通りを歩く人のために駐車場が必要だ。

▽その他

- ・大六天社には大ケヤキの生えた塚がある。
- ・駅前に山王さんという社と湧水がある。
- ・率土神社にも巨木がある。
- ・坂戸神社ではかつて映画の撮影が行われた。

各チームの検討結果は以下のようにまとまった。

■A チームまとめ 発表者：大森さん

▽まちあるきのルートについて

- ・坂戸神社を外したくないため、①袖ヶ浦高校ルートを変更して坂戸神社を回るコースとしたい。

▽袖ヶ浦駅前通りについて

- ・落ち葉や毛虫の問題があるため、サクラはやめたいと考えている。
- ・自転車が高速で坂を下るという問題があり坂について対策を講じたい。
- ・色彩について考えていきたい。

■B チームまとめ 発表者：稲毛さん

▽まちあるきのルートについて

- ・まちあるきでは数多くある歴史資源を巡れるよう、②福王神社ルートを変更し、大六天社を回り率土神社にいたるルートとしたい。坂戸神社も余裕があれば廻りたい。

▽袖ヶ浦駅前通りについて

- ・休憩所など、高齢者に配慮した提案を行いたい。

■全体まとめ 委託業者より

- ・概ねAチームが袖ヶ浦高校～坂戸神社、Bチームが福王神社方面から大勒天宮の話題だったので、次回の街歩きでは各チーム別行動で行いたい。

## (2) 第2回 昭和地区景観まちづくりワークショップ

### ①開催概要

■開催日時：8月9日(土) 15:00～17:30

■開催場所：袖ヶ浦市役所 旧館3階大会議室 及び 昭和地区内

■参加者（敬称略）

| A チーム | B チーム |
|-------|-------|
| 大森雅彦  | 稲毛博夫  |
| 若本重男  | 篠崎龍夫  |
| 藤井幸光  | 飯島久枝  |
| 田代哲郎  | 馬場元則  |
| 山口孝子  | 尾高幹男  |
|       | 松井洸   |
|       | 田中稔   |



ワークショップの様子

### ■開催プログラム

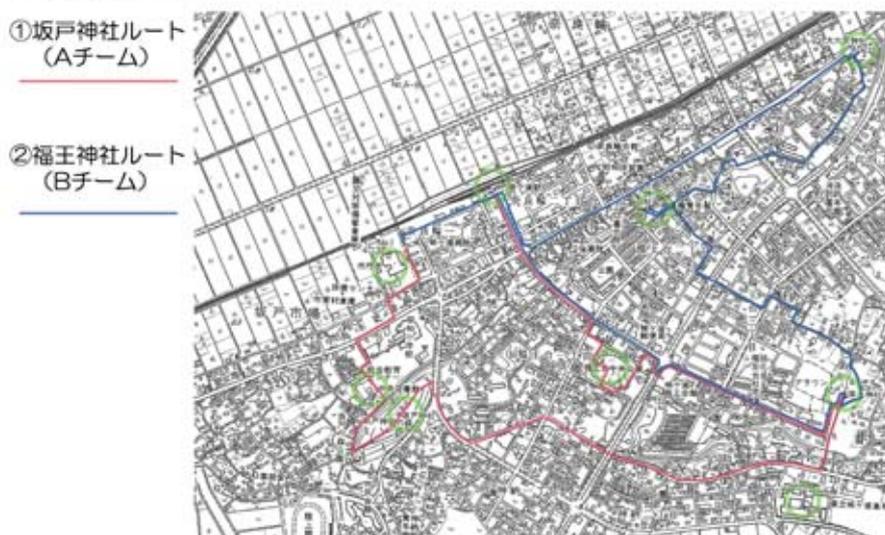
- ・委託業者が開会を行い、及川都市計画課長から挨拶した。事務局の紹介を行い、今日のプログラムについて説明した。
- ・新たに参加した方もいるので、参加者全員に簡単に自己紹介をしていただいた。
- ・市役所を出発し、袖ヶ浦駅前一度集合した。簡単に「袖ヶ浦駅前線共同溝整備事業」について触れ、ABチームともしばらく駅前通りを一緒に歩いた。
- ・福王台中央公園周辺でA、Bチームそれぞれに分かれてまちあるきを行った。
- ・両チームとも17時付近に10分違い程度で市役所に戻った。
- ・まちあるき終了後、チーム別に簡単なまとめ及び発表を行う予定だったが、参加者の方々のご都合がつかず、散会となった。
- ・後日送付するマップにコメント記入してもらい、第3回ワークショップに持参していただくこととした。

| 次第    | 時間          | 取り組み内容  | 取り組み単位 |
|-------|-------------|---|--------|
| 事前準備  | 14:30       | 事務局集合   |        |
|       | 14:30～14:40 | 事務局ミーティング   |        |
|       | 14:40～15:00 | 設営  |        |
| まちあるき | 15:00       | 開始  | 全体     |
|       | 15:00～15:10 | ・あいさつ<br>・作業説明<br>・自己紹介   |        |
|       | 15:10       | 出発  | チーム別   |
|       | 15:10～15:20 | 徒歩にて駅前に移動   |        |
|       | 15:20～16:50 | まちあるき（チーム別に）<br>Aチーム（駅前 中央公園 率土神社 坂戸神社 図書館 市役所）<br>Bチーム（駅前 大勒天 福王神社 率土神社 駅前 市役所）<br>・前回挙がったチェックポイントの確認<br>（重要な点は事務局がポストイットにメモ）<br>・写真撮影 |        |
|       | 16:50～17:05 | 徒歩にて移動  |        |
|       | 17:05       | 終了  |        |

## ②検討結果

※散会となったため、当日のご意見は次回に持ち越しとなった。

### まちあるきルート 資料2



### (3) 第3回 昭和地区景観まちづくりワークショップ

#### ①開催概要

- 開催日時：8月23日(土) 13:00～15:30
- 開催場所：袖ヶ浦市役所 旧館3階大会議室
- 参加者（敬称略）

| A チーム | B チーム |
|-------|-------|
| 若本重男  | 篠崎龍夫  |
| 藤井幸光  | 飯島久枝  |
| 山口孝子  | 馬場元則  |
|       | 尾高幹男  |
|       | 松井洸   |
|       | 田中稔   |



ワークショップの様子

#### ■開催プログラム

- ・委託業者が開会を行った。事務局の紹介を行い、今日のプログラムについて説明した。
- ・まちあるきを踏まえて、「景観資源マップ」と「袖ヶ浦駅前通り整備イメージ」という二つの目標について再確認し、今日の議論の目的を明確にした。
- ・まちあるきまとめでは、マップとイメージについて一体的に議論を行った。成果物の枠にとらわれない多様な提案が出された。
- ・A、Bチームそれぞれ、話し合いの結果を発表。
- ・次回までに参加者それぞれに、自分の好きな景観について最低一枚の写真を撮ってきてもらい、貼り出して発表する旨、告知した。
- ・最後に、次回の開始時間を13時半でよいか諮り、了承いただき、閉会した。

| 次第        | 時間          | 取り組み内容                             | 取り組み単位 |
|-----------|-------------|------------------------------------|--------|
| 事前準備      | 13:00       | 事務局集合                              | 事務局    |
|           | 13:00～13:10 | 事務局ミーティング                          |        |
|           | 13:10～13:30 | 設営                                 |        |
| はじめに      | 13:30       | 開始                                 | 全体     |
|           | 13:30～13:45 | ・あいさつ(開会、事務局紹介)<br>・前回の概要<br>・作業説明 |        |
| まちあるきまとめ  | 13:45～14:30 | 景観資源マップについて                        | チーム別   |
|           | 14:30～15:00 | 駅前線整備イメージについて                      |        |
| 発表&次回に向けて | 15:00～15:20 | チーム別に、の発表                          | 全体     |
|           | 15:20～15:30 | ・次回の作業、宿題について説明<br>・質疑応答           |        |
|           | 15:30       | 終了                                 |        |

## ②検討結果

チーム別の作業では、以下のような意見があがった。

### ■A チーム

#### ▽景観資源マップについて

- ・率土神社参道からの眺望や社林は素晴らしい。ベンチ等を整備すべき。
- ・旭化成の社員寮の跡地があいている。公園等の土地利用のありかたについて検討すべき。
- ・国道16号下のトンネルの落書きがひどい。ここをキャンバスにしてアーティストに絵を描いてもらうのはどうか？
- ・福王台中央公園のトイレや防災倉庫がいたずらによって汚損して使用中止になっている。
- ・市役所屋上もアクアラインや富士山、夕日などが見える眺望スポットである。マップに盛り込みたい。展望台があるとよい。
- ・坂戸神社は地域のシンボルとなる重要な空間である。運動公園とあわせた一体的な整備が必要である。
- ・坂戸の森は樹種や樹齢も調査されている。
- ・坂戸神社の入口の案内が分かりにくい。
- ・運動公園の活用としてフラットスポーツ（地域総合型スポーツクラブ）との連携や、シニアクラブ（グランドゴルフなど）との連携をしてはどうか。
- ・図書館～市役所付近の旧道沿いは歩道が狭くかなり危険。
- ・図書館等に温浴施設があるとよいのではないか。

- ・バスの本数があまりに少ない。また、JR との接続も悪いのは問題である。
- ・(マップ全体について) ハイキングやジョギング、サイクリングコースを盛り込んでもよいのでは。
- ・マップを駅や交番で掲示したい。
- ・マップと共に案内板、道標などの整備も必要だ。

#### ▽袖ヶ浦駅前通り整備イメージについて

- ・福王台の桜は密集しすぎて、落ち葉等の問題がある。
- ・植栽は低木がよい。2m 間隔程度。
- ・実のなる木は汚れるので避けたい。
- ・ベンチが足りない。メーカー品ではなく、ボランティアの手で木や竹を加工してベンチを設置してはどうか？ ボランティアを集める仕組みづくりが必要。
- ・バリアフリーの観点から段差をなくしたい。

### ■B チーム

#### ▽景観資源マップについて

- ・(マップ全体について) バスなど公共交通の情報を載せるべきだ。
- ・写真と資源を結びつける番号をふるとよい。
- ・マップで取り上げた資源には看板があるとよい。
- ・率土神社のスダジイ、法光寺公園のタブノキ、大勸天宮のタブノキなどここに古い巨木があるこれを生かしてはどうか。
- ・巨木なのに看板が一切ないので改善すべき。
- ・奈良輪の県道沿いに絞り水が出ている個所がいくつかあり、喜光院脇では汲めるようになっている。これは保健所の検査でも飲用に問題ないとなっている。
- ・県道沿いの用水路は排水が悪く淀んでいたのが気になる。
- ・浄化槽が多い地区や、完全下水に移行している地区など場所によって整備状況が異なる。
- ・この付近の水路には奈良輪堰や遠くは百々目堰から水が流れ込んでいる。
- ・いまは鬱蒼としているが、奈良輪堰は散策にするによい場所だった。
- ・(以上の議論から) 水を切り口としたマップ構成もよいのではないか。
- ・福王神社について。富士山、アクアラインも見える絶好の眺望ポイントである。防護フェンスがもったいない感じがする。
- ・率土神社が日常管理「宮薙」で維持されているように地域の人たちの参加が景観の維持には不可欠だ。

#### ▽袖ヶ浦駅前通り整備イメージについて

- ・袖ヶ浦駅の木造駅舎は巖根駅と並んで古く、大正元年 8 月 23 日竣工である。
- ・高木は(福王台の桜のように) 成長しすぎる弊害があるため、植栽は低木がよい。

- ・ 駅前のイメージとして緑が多いことは重要である。
- ・ 両側がシャッター通りと化している。もっと華やかさが欲しいところ。
- ・ 店舗の看板が左右で雰囲気が違いすぎる。
- ・ 空き店舗を利用して、休憩所やトイレとして利用してはどうか。
- ・ 自転車のスピード出し過ぎの問題がある。せめて標識をつけて注意喚起してはどうか。
- ・ 花壇の雑草の手入れができていない。行政主導には限界があるが…。
- ・ 昭和小学校でやっているお祭りを駅前通りでやってはどうか。
- ・ 一部を歩行者天国にするという手もある。
- ・ 木更津の「やさいもっさい」が一つの見本となる。
- ・ いずれにせよ、実行するリーダーが必要だ。

各グループの検討結果は以下のようにまとまった。

■Aチーム 発表者：藤井さん



■B チーム 発表者：事務局



■両チーム発表後に

- ・法光寺では、住職と地元の人で周辺の手入れをしている。
- ・役所に頼るのではなく、地元で（草花など）手入れをすべきだ。そして、手入れをしている人には通る人が、「ありがとう」や「御苦労さま」という言葉をかけるべきだ。
- ・袖ヶ浦海浜公園は眺望が大変よいところだが、知名度がもう一つない。名称を変える、バーベキューを解禁するなど工夫が必要。
- ・袖ヶ浦公園は知名度は高いが、公共交通で行けないのが難である。

#### (4) 第4回 昭和地区景観まちづくりワークショップ

##### ①開催概要

■開催日時：9月6日(土) 13:30～15:30

■開催場所：袖ヶ浦市役所 旧館3階大会議室

■参加者（敬称略）

| A チーム | B チーム |
|-------|-------|
| 若本重男  | 稲毛博夫  |
| 藤井幸光  | 篠崎龍夫  |
| 田代哲朗  | 飯島久枝  |
|       | 馬場元則  |
|       | 尾高幹男  |
|       | 松井洸   |
|       | 田中稔   |



ワークショップの様子

##### ■開催プログラム

- ・委託業者が開会を行った。事務局の紹介を行い、今日のプログラムについて説明した。
- ・事務局が作成した「景観資源マップ」と「袖ヶ浦駅前通り整備イメージ」について意見を頂いた。
- ・参加者各自に撮影していただいた「わたしの好きな景観」の写真をホワイトボードに貼り付け、一人ずつ発表していただいた。
- ・資料2「平岡地区に向けて」を示して、平岡地区の日程を案内し、参加をお願いした。
- ・最後に及川課長から挨拶し、閉会した。

| 次第          | 時間          | 取り組み内容                             | 取り組み単位 |
|-------------|-------------|------------------------------------|--------|
| 事前準備        | 13:00       | 事務局集合                              | 事務局    |
|             | 13:00～13:10 | 事務局ミーティング                          |        |
|             | 13:10～13:30 | 設営                                 |        |
| はじめに        | 13:30       | 開始                                 | 全体     |
|             | 13:30～13:40 | ・あいさつ(開会、事務局紹介)<br>・前回の概要<br>・作業説明 |        |
| マップとイメージの確認 | 13:40～14:20 | 景観資源マップについて<br>駅前線整備イメージについて       |        |
| わたしの好きな景観   | 14:20～15:10 | ・参加者の写真を黒板に貼り出す<br>・一人ずつ発表         |        |
| 発表&次回に向けて   | 15:10～15:20 | ・平岡地区に向けて                          |        |
|             | 15:20～15:30 | ・質疑応答<br>・閉会の挨拶                    |        |
|             | 15:30       | 終了                                 |        |

## ②検討結果

### ■景観資源マップ（課題マップと資源マップ）について

- ・法光寺のバカグスについて、幹が8つに分かれているのが独特なので言及すべき。
- ・昭和通りのベンチの写真を載せてほしい。
- ・福王台の桜並木は剪定をしたが、その後の処置が心配だ。各地で天狗巣病も広がっているのも憂慮すべき問題だ。
- ・福王神社のフェンスは風を防ぐために設置した。
- ・市民が動かなければ景観は動かないので、まず「昭和からはじめよう」を合言葉にしていきたい。
- ・神納では花植えに多くの人に参加している。やればできることの証拠だ。
- ・旭化成の跡地は緑を活かして、先を見越した整備が必要。
- ・袖ヶ浦高校と地元は定期的に会合を持っており、景観づくりにも役立てたい。
- ・袖ヶ浦は森、街、田畑のバランスが良い。

### ■袖ヶ浦駅前通り整備イメージについて

- ・低木だけだとさびしい。高木と低木おりませた形が良い。落ち葉の問題はあるが、地元で清掃を行えば解決しそうな問題だ。
- ・竹を使ったベンチについて、作り方のコンクールを開いて市民からアイデアを募集して

はどうか？

- ・竹林は地主が不明で手を付けられないこともある。
- ・竹の子や竹林のオーナー制度があるとよいのではないか。

■わたしの好きな景観について

○飯島さん

- ・浮戸川。八重桜の並木が素晴らしい。
- ・福王台中央公園。仕事帰りによく休憩した。 など

○篠崎さん

- ・袖ヶ浦海浜公園。眺めもよく、設備も充実している。 など

○田中さん

- ・福王神社の巨木。長い時間を感じさせる。 など

○尾高さん

- ・坂戸神社。かつて映画の撮影が行われた小道。往時がしのばれる。
- ・神納の竹林。高校時代の友人が住んでいた。

○松井さん

- ・率土神社。日々の手入れが活かされている。
- ・浮戸川の広域農道。朝日がすばらしい。

○馬場さん

- ・市役所。上の階からの眺めが素晴らしい。
- ・今井三丁目運河。かつての海岸線に思いをはせる。

○若本さん

- ・鎌倉街道、三十三番札所、柿畑、富士見えるかも橋など、長浦地区の写真をもう少し空気が澄んできたら撮って届けたい。



参加者の皆さんに持ち寄っていただいた写真

以上、全 4 回の検討を経て、昭和地区景観まちづくりワークショップの成果物は以下のよう  
にまとまった。※下図、参考資料参照

- ・昭和地区まちあるきマップ (A コース、B コース)
- ・気がつきマップ (A チーム分、B チーム分)
- ・袖ヶ浦駅前線整備イメージ
- ・市民会館まつり掲示資料

景観まちづくり  
ワークショップ

昭和地区  
まちあるきマップ  
Aコース

昭和地区の景観  
ワークショップ  
参加者のみなさんと「まちあるき」を  
行って作成したものです。意外に気づ  
かない袖ヶ浦の景観のよいところを載  
せていますので、ぜひお散歩してみ  
てください。

■ A コースの参加者  
渡辺一男、大森雅彦、田代朋樹  
藤井平元、山口孝子、若本薫




昭和地区まちあるきマ  
ップ。A チームが歩いた  
A コース

昭和地区まちあるきマ  
ップ。B チームが歩いた  
B コース

景観まちづくり  
ワークショップ

昭和地区  
まちあるきマップ  
Bコース

昭和地区の景観  
ワークショップ  
参加者のみなさんと「まちあるき」を  
行って作成したものです。意外に気づ  
かない袖ヶ浦の景観のよいところを載  
せていますので、ぜひお散歩してみ  
てください。

■ B コースの参加者  
飯島久枝、松本博夫、飯島村男  
藤嶋隆夫、田中晴、長瀬元則、松井正




## 2-2 平岡地区

平岡地区では長浦、昭和地区同様「まちあるき」「景観資源マップ」を通じた社会実験を行った。ただし、平岡地区の景観は農村景観が主であることから「まちあるき」ではなく、「里あるき」と呼称した。また、豊かな自然景観が残る一方、竹林の拡大や残土処理など地区特有の課題が想定されたことから、これらの課題の解決策について検討することとした。

### (1) 第1回 平岡地区景観まちづくりワークショップ

#### ①開催概要

■開催日時：10月18日(土) 13:00～15:30

■開催場所：平岡公民館 2階研修室

■参加者（敬称略）

|      |
|------|
| 三島幸光 |
| 若本重男 |
| 山口孝子 |
| 竹元悦子 |
| 石木茂世 |
| 山口輝昭 |
| 根本鎮夫 |
| 浦川昇  |
| 松永敬一 |



ワークショップの様子

#### ■開催プログラム

- ・委託業者が開会を行い、及川都市計画課長から挨拶した。事務局の紹介を行い、今日のプログラムについて説明した。
- ・これまでのおさらいでは、平成17年度からの景観まちづくりの経緯、今年度前半の昭和地区ワークショップの概要について配布資料を元に説明した。
- ・今年度の取り組みの事務局案について配布資料を元に説明し、里あるきルートの検討に移行した。
- ・参加者より一言自己紹介いただいた。
- ・コースは、川原井集落の入り口をスタートし、松川の源流を目指す案でみなさんの承認をいただいた。

| 次第        | 時間          | 取り組み内容  | 取り組み単位 |
|-----------|-------------|---|--------|
| はじめに      | 13:00       | 開始  | 全体     |
|           | 13:00～13:05 | あいさつ  |        |
| これまでのおさらい | 13:05～13:35 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 景観まちづくりの方向性</li> <li>・ 平岡地区の目標・基本方針</li> <li>・ 昭和地区のワークショップ開催概要</li> <li>・ 質疑応答</li> </ul> |        |
| 今年度の取り組み  | 13:35～14:10 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度の目的、取り組み内容の説明</li> <li>・ 一言自己紹介（一人1分以内）</li> </ul>                                      |        |
|           | 14:10～14:50 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会実験に対する意見交換</li> <li>・ 地図を見ながらチェックポイントを整理</li> </ul>                                      | グループごと |
|           | 14:50～15:00 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 質疑応答</li> </ul>  | 全体     |
|           | 15:00       | 終了  |        |

## ②検討結果

これまでのおさらいを受けて、以下のような意見があがった。

### ■景観まちづくり全体について

- ・ これまでのワークショップの内容は分かったが、最終的に市がどのような成果をまとめるかが見えない。意見を言うのはよいが、言いつばなしになる可能性がある。
- ・ ワorkshopごとに新しいメンバーに変わり継続性に疑問を感じる。
- ・ 継続して参加している。景観に係るさまざまなことを学ぶことができている。
- ・ 市に意見を言うだけでなく、里山の散策路整備を自主的にやっている。市が動きにくい部分も市民の側が柔軟に素早く動けばよいのではないか？
- ・ 地域別構想のWSから参加しているが、すでにさまざま議論している中で、マップづくりのみが成果というのはさびしい気がする。
- ・ 経験のある人と無垢の状態の人が一緒にやることは意味がある。

その後、マップを囲んでの作業に移行した。参加者の意向によりグループ分けをせずに作業を行った。

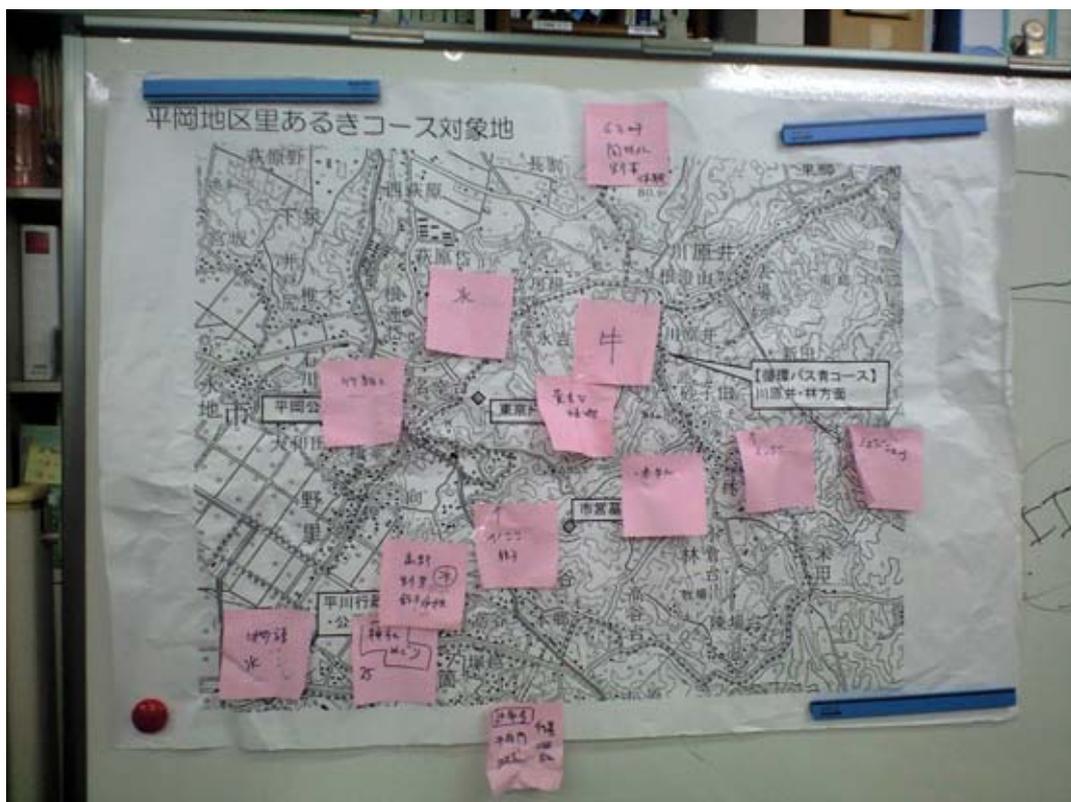
### ■地域の資源、歴史等について

- ・ ドイツ村裏手に競馬場の跡地があり、塚がある。
- ・ 上記競馬場付近には貴重な湿生植物が生育する場所がある。
- ・ 各所の谷津は田園風景が美しい。

- ・湧水の出る場所がかなりある。高野堰、野里神社付近、鈴木病院、永吉など。
- ・ホテルも各地で見られる。
- ・林から房総横断道路に抜ける付近には牛が多く飼われている。
- ・地区内あちこちでイノシシが出現する。
- ・出光研究所の桜は日本桜の会から表彰されたことがある。
- ・市営墓地公園も桜の名所である。
- ・野里神社は古式の建築様式で建て替えた。
- ・昔は「水争い」があり、塚が残っている。
- ・松川の源流には水芭蕉がある場所がある。
- ・幽谷分校は大変建物が美しく、秋には彼岸花も楽しめる。

#### ■里あるきのコースについて

- ・川の流れに沿って集落ができていて、という物語を実際に追ってみたい。松川の源流を確認したいという思いもある。
- ・地区内に相当数の神社仏閣があり、それぞれに物語がある。



地域の資源の検討

## (2) 第2回 平岡地区景観まちづくりワークショップ

### ①開催概要

- 開催日時：11月15日(土) 9:00～12:00
- 開催場所：平岡公民館2階研修室 及び 平岡地区内
- 参加者（敬称略）

|      |
|------|
| 武川達雄 |
| 山口孝子 |
| 石木茂世 |
| 山口輝昭 |
| 根本鎮夫 |
| 浦川昇  |
| 松永敬一 |
| 鶴岡正幸 |



ワークショップの様子

### ■開催プログラム

- ・都市計画課から挨拶した。事務局の紹介を行い、今日のプログラムについて説明した。
- ・初めて参加の方もいたので、簡単に自己紹介をしていただき、マムシ、スズメバチ等への注意をお願いした。
- ・車にて平岡公民館から真光寺駐車場まで移動。
- ・徒歩にて真光寺見学。寺務長・山崎さんより樹木葬と里山管理のお話を聞く。
- ・お話で予想以上に時間が過ぎたため、車にて大月川沿いに南下。谷津田の入口付近に駐車し、里あるきを再開。
- ・谷津田を一通り見て回り、ミズバショウや、放棄された谷津を確認。
- ・斜面の草刈りをしていた東京からのボランティアの方の話聞く。
- ・谷津田入口に帰着。車にて光明寺に移動。光明寺及び、砂利採取場の確認。
- ・光明寺は幽谷分校発祥の地。かつては寺子屋が開かれていた。
- ・車にて八幡神社に移動。八幡神社、熊野神社を見学。
- ・車にて平岡公民館に帰着。解散。

| 次第     | 時間          | 取り組み内容   | 取り組み単位 |
|--------|-------------|--|--------|
| 事前準備   | 8:30        | 事務局集合  | 事務局    |
|        | 8:30～8:40   | 事務局ミーティング  |        |
|        | 8:40～9:00   | 設営   |        |
| はじめに   | 9:00        | 開始   | 全体     |
|        | 9:00～9:10   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・開会の挨拶</li> <li>・今日の里あるきについて説明</li> <li>・ルートの相談</li> <li>・マムシ、スズメバチ等注意事項の伝達</li> </ul>  |        |
| 里あるき   | 9:10        | 出発   | 全体     |
|        | 9:10～9:30   | ・車にて真光寺駐車場に移動  |        |
|        | 9:30～11:20  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・里あるき</li> <li>真光寺 八幡神社&amp;熊野神社 光明寺(旧幽谷分校) 川原井集落を南下 谷津田探索 同ルートを上 真光寺</li> <li>・景観上のポイントや社会実験について意見交換しつつ歩く</li> <li>・事務局は適宜メモを取る</li> </ul> |        |
|        | 11:20～11:35 | 車にて移動  |        |
|        | 11:35       | 平岡公民館到着  |        |
|        | 11:35～11:45 | 休憩   |        |
| 今日のまとめ | 11:45～11:55 | ・今日のふりかえりと次回の案内  | 全体     |
|        | 11:55～12:00 | ・閉会の挨拶   |        |
|        | 12:00       | 終了   |        |

### 里あるきルート（案）



里あるき当日に使ったルートマップ

## ②検討結果

里あるきの現場にて以下のようなお話を聞くことができた。

### ■真光寺寺務長・山崎さんの話

- ・真光寺は開山から 457 年。平安時代から人が住んでいた。現在の住職は入山 13 年で、放棄牧草地だった境内を開墾し、樹木葬や里山保全に取り組んでいる。
- ・放棄された部分には孟宗竹が広がっていた。もともとはコナラなど広葉樹と針葉樹のモミの林だったようだ。
- ・樹木葬は通常の墓石の代わりに 10 cm ほどの名前を刻んだ石と、樹木の苗を植えるものである。
- ・里山の手入れは年 2 回檀家の手で行っている。
- ・境内にはキンラン、ギンラン、ヤブレガサなど雑木林独特有な草花が生育している。
- ・房総半島、三浦半島に共通しているカンアオイも生育している。1km 移動するのに 1 万年かかり、種は蟻が運んでくれる。
- ・現在、千葉の里山は高齢化が進んでいる状態。間伐などの手入れによって若返りが必要だ。
- ・真光寺を事務局に NPO 法人「かずさ自然学校」の活動をしている。一泊二日で 20～30 人程度、東京等の都市部の人を受け入れ、農業体験や里山体験を行っている。
- ・自然学校参加者は 20～30 代が中心。親子で来るが親のほうが夢中で作業している。
- ・臨海部の企業も研修等で自然教室に訪れている。

《参加者から》

- ・川の上流と下流それぞれでこうした里山保全活動がされている。本来は一体なので、一体的なネットワークが必要だ。

### ■草刈りボランティアの方の話

- ・東京から来る人が多い。草刈りは毎週している。地元にはそれほど知られていない
- ・隣接する谷津は砂利採取業者が買い取り、山がなくなる。その後産廃が埋められそうなので憂慮している。
- ・山砂を運んでいるダンプのマナーが悪い。
- ・イノシシが多い。彼らは臆病なため手入れせず藪状だと、潜みやすい。田畑を荒らすので、なるべく草を刈って近寄りにくくしている。

《参加者から》

- ・せっかくよい活動をしているのに、知名度があまりない。効果的な PR が必要だ。

### (3) 第3回 平岡地区景観まちづくりワークショップ

#### ①開催概要

■開催日時：11月29日(土) 13:30～15:30

■開催場所：平岡公民館 2階研修室

■参加者（敬称略）

武川達雄  
若本重男  
山口孝子  
竹元悦子  
石木茂世  
根本鎮夫  
浦川昇  
松永敬一  
鶴岡正幸



ワークショップの様子

#### ■開催プログラム

- ・都市計画課より挨拶した。事務局の紹介を行い、今日のプログラムについて説明した。
- ・これまでのおさらいでは、ワークショップの目的、成果について市の方針を再確認した。
- ・次に里あるきのまとめと、社会実験に関する意見交換を行った。
- ・事務局から、次回は地域活動に関して検討する旨告知してから、終了した。

| 次第      | 時間          | 取り組み内容  | 取り組み単位 |
|---------|-------------|---|--------|
| 事前準備    | 13:00       | 事務局集合   | 事務局    |
|         | 13:00～13:10 | 事務局ミーティング   |        |
|         | 13:10～13:30 | 設営  |        |
| はじめに    | 13:30       | 開始  | 全体     |
|         | 13:30～13:50 | ・開会の挨拶<br>・前回のふりかえりと今日の作業について説明   |        |
| 里あるきまとめ | 13:50～14:40 | ・A1 図面を囲んで<br>・里あるきで回った景観資源に対してコメントをいただいた。<br>・その他、個別の景観について意見出し<br>・マップの活用方法について意見出し | 全体     |
| 社会実験の相談 | 14:40～15:20 | ・里あるきの結果見えてきた課題に対して、解決を模索する。  |        |
| 今日のまとめ  | 15:20～15:25 | ・今日のふりかえりと次回の案内   |        |
|         | 15:25～12:00 | ・閉会の挨拶  |        |
|         | 12:00       | 終了  |        |

## ②検討結果

里あるきした景観資源や、社会実験について以下のような意見があがった。

### ■里あるきコースの資源について

#### ▽真光寺（及びNPO かずさ自然学校）について

- ・地元に受け入れられているか疑問な面もある。マップで取り上げるのは慎重であるべき。
- ・住職は若く、寺のイメージを変えた感がある。
- ・安政年間から寺地と呼ばれて当時から寺があった。
- ・他地区と異なり、真光寺の雑木林にはギンランが多い。
- ・樹木葬自体は興味深く、景観への効果も高いので取り上げるのがよい。

#### ▽谷津田について

- ・ミズバショウは水質や泥質が合わないかも。砂質のほうがよい。株分けして増やせる人を募ってはどうか？
- ・泥は 70 cm程ありかなり深い。イノシシも浅いところなら掘るがミズバショウまでは手が出せないようだ。
- ・今年はどうぐりが多く、栗は成りが悪かった。イノシシに食べられて被害がでている。
- ・イノシシは夜に出没することが多いので、姿はみない。→夕方遭遇したことがある。

- ・ミズバショウがある部分の管理は誰が？→地元の人が所有はしている。
- ・谷津田の一部は棚田になっていた。

#### ▽八幡神社、熊野神社について

- ・八幡神社のイチョウは子供のころには幹も無事だった。
- ・市の保存樹木になっているが、樹木や周辺の管理まで市が行うわけではない？
- ・祭りがなくなると氏子も集まりにくくなり、管理もできなくなる。
- ・新住民が氏子になれない場合もある。
- ・(野里神社では)新旧住民問わず出資して改築した。これからは新住民、旧住民という枠に囚われるべきではない。

#### ■景観資源マップについて

- ・観光マップに対してどんな機能にするか明確にすべき。→観光マップでは川原井地区は空白になっている。(事務局より)
- ・川の流域、海とのつながり等の切り口を明確にすべきだ。
- ・マムシ、スズメバチなどに遭遇する危険がある。明記したほうがよい。
- ・動植物についての情報を盛り込むのがよい。

#### ■里あるきルート全般について

- ・ミズバショウのところの木道、養殖池、ダンプが行き交う道など危険な場所も多い。散策路として改善できるとよい。
- ・もっと歩いて発見がある道を見つけないか。歩けることがなによりだ。
- ・散策のために駐車できるスペースがきちんとあるとよい。真光寺、光明寺などの駐車場を利用しては？
- ・マムシ等の危険を知らせるパネルを掲示するのもよい。

#### ■社会実験について

- ・もっと地元の人を巻き込んでいくべき。地元の生字引きのような人の話を聞いたり、地域のことを教えてもらいながら歩くのもよい。
- ・案内のボランティアのような仕組みを作ってはどうか？ また、案内できないときでも、読めばわかるメッセージボードを現地に掲示してもよい。
- ・祭り寿司の名人がいるので、散策の際の弁当にしてもよいし、寿司作り体験をするのもよい。
- ・地域を散策して最後に豚汁を食べるといったイベントはどうか？
- ・駐車場やトイレが問題だ。光明寺の駐車場が広いのでちょうどいいかも。トイレは簡易トイレを借りるのもよい。
- ・年内に広報への原稿を手配すれば2月1日号に間に合う。2月中旬開催で考えては？

- ・イベント開催には段取りが大変であり、今年度開催は難しい。
- ・イベントはワークショップ参加者の自主的な活動で行ってはどうか。
- ・（事務局より）次回は社会実験から一步進めて地域活動についてのアイデア出しとしたい。ワークショップの業務は12月で終了なので、一度仕切らせてほしい。来年度以降の動きで、市民のこうした景観に関する活動を盛り上げようと考えていたので、よい提案が出てくれば推進方策に取り上げることも出来ると考えている。

■景観まちづくり全体について

- ・残土処理や砂利採取による景観の悪化を懸念している。
- ・景観行政を入口にして、さまざまな問題に対処すべきだ。景観基本計画をつくる際に残土などの諸問題を考慮してほしい。

#### (4) 第4回 平岡地区景観まちづくりワークショップ

##### ①開催概要

■開催日時：12月6日(土) 13:30～15:30

■開催場所：平岡公民館 2階研修室

■参加者（敬称略）

|      |
|------|
| 武川達雄 |
| 若本重男 |
| 山口孝子 |
| 竹元悦子 |
| 石木茂世 |
| 山口輝昭 |
| 根本鎮夫 |



ワークショップの様子

##### ■開催プログラム

- ・都市計画課から挨拶した。事務局の紹介を行い、今日のプログラムについて説明した。
- ・景観資源マップについて、事務局の作成したレイアウト案の確認を行った。
- ・景観資源マップの広域版については、第1回で時間が足らなかったこともあり、さらに意見をいただいた。
- ・景観に関する地域活動については、事務局の用意したチェックシートを元に議論を進めた。
- ・若本さんから「久保田の里山を歩く会」の、竹元さんから「NPO 法人たけのこ」の活動についてお話いただいた。
- ・ワークショップの総括と、今後の地域活動について事務局でまとめをして終了した。

| 次第             | 時間          | 取り組み内容   | 取り組み単位 |
|----------------|-------------|--|--------|
| 事前準備           | 13:00       | 事務局集合  | 事務局    |
|                | 13:00～13:10 | 事務局ミーティング  |        |
|                | 13:10～13:30 | 設営   |        |
| はじめに           | 13:30       | 開始   | 全体     |
|                | 13:30～13:50 | ・開会の挨拶<br>・前回のふりかえりと今日の作業について説明  |        |
| 景観資源マップの確認     | 13:50～14:40 | ・事務局で用意した叩き台に対して意見交換<br>・追加したい資源やコメントの確認<br>・マップの活用方法について                          | 全体     |
| 景観に関する地域活動について | 14:40～15:20 | ・景観に関する地域活動の開催を仮定して、開催内容、プログラム、活用できる景観資源、人的資源について議論。<br>・地域活動以外の社会実験の可能性についてアイデア出し |        |
| 今日のまとめ         | 15:20～15:25 | ・今日のふりかえりとまとめ  |        |
|                | 15:25～15:30 | ・今後の動きについて<br>・来年度に向けて<br>・閉会の挨拶   |        |
|                | 15:30       | 終了   |        |

## ②検討結果

景観資源マップや地域活動について以下のような意見があがった。また、新たに 3 つの里あるきルートが設定された。

### ■景観資源マップについて

#### ▽川原井コースのマップについて

- ・「マムシやスズメバチに注意」の文言を入れる。
- ・駐車場の表示をする。また、「ひと声かけましょう」と明記する。

#### ▽平岡地区広域版マップについて

- ・議論の結果、川原井の他 3 つのコースを設定した。
- ・各コースには、60 歳代以上の歩く速度を想定した所要時間を設定する。
- ・どのコースも平岡公民館を基点とする。

《1》永地コース（仮）

- ・龍泉寺、諏訪神社付近の松川では川岸の改修工事が行われたので、これを検証する意味もこめてコースに入れたい。
- ・上泉の八幡神社（通称：愛宕神社）では集団で七五三をする。昭和 40 年代ごろから始まった。最近で多かった際は 5、6 組だった。
- ・大和田神社、光徳寺は見に行ったことがない。

#### 《2》野里コース（仮）

- ・平岡公民館の南西側に水争いの犠牲者を祀ったゲキ塚（行人塚）があり、竹が生えているのを地元でたまに整備している。
- ・野里神社は近年 2 度火事に遭っているが、地区の皆で出資して建て直した。
- ・野里神社の夏祭りは平岡地区でも随一である。正月にはどんどん焼き、節分には豆まきもやる。
- ・野里神社では敷地が広いので舞台を設えて、芝居や映画を上演している。
- ・野里堰のすぐ下のトイレから下流がわに自噴井がある。
- ・延命寺はやや遠いが、見ごたえがあるので、健脚向きのコースとして入れたい。
- ・同上で、市営墓地公園も桜がとても見事なので盛り込みたい。
- ・市営墓地公園はバス停から遠いため、中までガウラ号が入るとよい。
- ・夏場は市営墓地公園の開園が早朝や夕方にならずに墓参りしやすくてよい。

#### 《3》花房平コース（仮）

- ・ドイツ村との境界に有刺鉄線があり、通学する小学生が服を切ることもある。
- ・観覧車の向こう側に昔の競馬場跡があるが、特に遺構や説明板などはない。
- ・平岡小付近と自然教室付近に馬の石碑がある。（競馬場とは関連がない）
- ・ドイツ村の裏手の畑ではドイツ村主催の農業体験が行われている。隣接の畑で、平岡小の農業体験も行っている。

#### 《4》三箇地区について（特にコース設定は行わなかった）

- ・日本在来のサクラソウを畑いっぱい育てている人がいる。
- ・イチゴ、イチジク、トマト等の収穫体験ができるハウスがいくつかある。

### ■景観に関する地域活動について

- ・市外、県外よりも、地元をいかに巻き込むかが大事。地元の人には地域が盛り上がり欠けると感じていても自ら動くことはできない。どんなことをするか、提案していくことが大切だ。
- ・（川原井地区について）地元の人に地域活動について意見を聞いたが、けっこう乗り気だった。

■久保田里山を歩く会について 若本さんの話

- ・若本さんより、「久保田散策道周辺の自然・文化遺産」「同 散策ガイド」の資料を提供いただき、活動内容や課題についてお話いただいた。お話に伴う参加者のご意見も併記する。
- ・かまくら街道や西国三十三霊場石碑など、地元の人ですら知らない資源があると知り、赤道を中心に里山の保全活動を進めてきた。
- ・赤道とはいえ、道と私有地の境界が分かりにくく、所有者とトラブルになったこともある。

《竹について》

- ・モウソウチクが相当広がっているので、ベンチなどに加工して散策道に置いている。
  - ・竹林は土地所有者や土地境界が分かりにくく、手入れしたくとも交渉しにくい現状がある。
- 竹は丈夫なため、切っても使いきれないことが多い。また、カゴのような複雑なものは素人では加工がしにくい。竹炭もそれほど大量に作ってもしかたない。などなど、大量の竹が余っている状態だ。
- 竹を切ることができても、運び出す手段がない。
- 竹の子狩りと竹切りをセットにしてお客を呼んではどうか。

《会員獲得について》

- ・理解ある土地所有者と連携して、放棄された果樹園を整備し、花の季節にイベントを行っている。
  - ・目下、新入会員の増加があまりなく、イベントには来ても定例活動に来る人が限られている。また、会員の高齢化も進んでいる。
- 若い会員を呼ぶためには子供をひきつける活動をして、その親を取り込むのがよい。
- 草刈り等肉体労働的になるので、作業後に鍋やバーベキューを楽しむといった食べ物を絡めた活動だと張り合いがある。

《活動資金について》

- ・活動資金については会費、自治会からのガソリン代を充てている。17年に新日鉄のクロバー賞を受賞し、その賞金も大切な資金源である。散策ガイド等の印刷は賞金で行った。
- （前記の食べ物にも関連して）地域に貢献する活動に対しては市が助成をしても良いのではないか。ちょっとした食べ物代として使えるとよい。

《残土問題について》

- ・活動範囲内での残土処分に心を痛めている。実際に残土処分によって通れなくなった道もある。
- ・残土処分業者と土地所有者の間でトラブルが発生したり、転売によって土地についての責任が不明瞭になったりという問題が生じている。

- ・手入りがされていないと、処分業者に残土や産廃を捨てる口実を与えることになっている。業者に非がある部分もあるが、半分は地元の責任でもある。

《今後の課題》

- ・散策道の入り口が急斜面なので、バリアフリー化ができればよい。

■NPO 法人たけのこについて 竹元さんの話

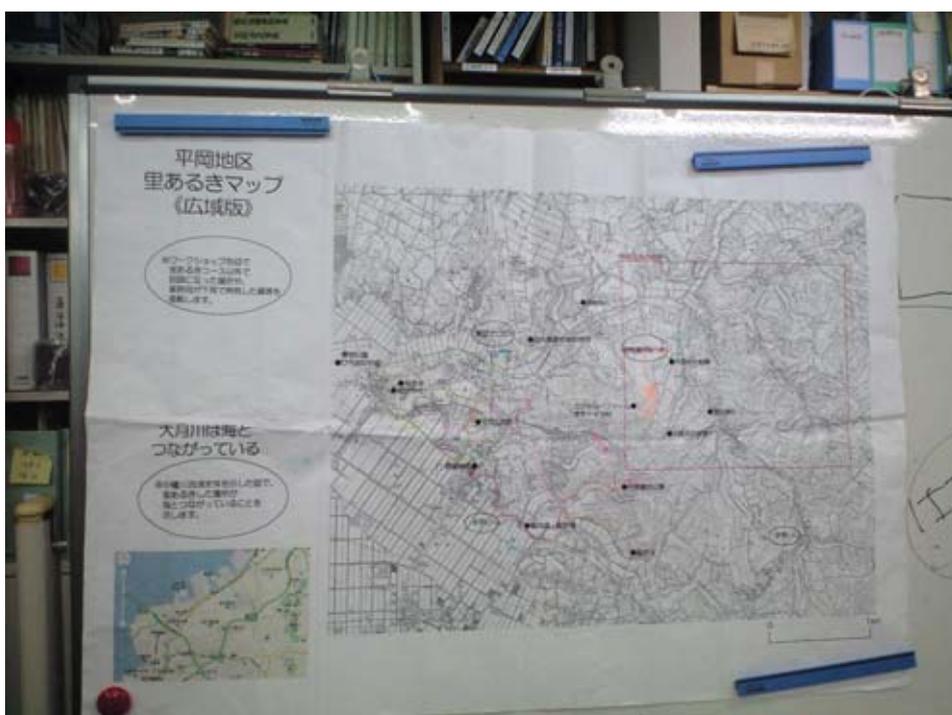
- ・旧老人会の福寿会と学童保育の平岡放課後児童クラブを結びつけて、世代間の交流を行っている。福寿会の高齢者の知恵を学童の世話に生かしている。

■今日のまとめ 事務局より

- ・今後の交流のため参加者同士の連絡先の交換をみなさんにご了解いただいたので、実施報告を送付する際に名簿を同封する。名簿には特技等も記入し、様々な場面でネットワークを活かせるようにする。
- ・ワークショップは4回で終了だが、新たなコースを設定したため、番外編としてこのうち一つのコースを回ることとする。日程は2月上旬とし、後日お知らせする。
- ・番外編では成果品（景観資源マップ）の検証を行う。

以上、全 4 回の検討を経て、平岡地区景観まちづくりワークショップの成果物は以下のよう  
にまとまった。※次頁を参照

- ・平岡地区里あるきマップ（川原井版、広域版）



新ルートを蛍光ペンで検討

景観まちづくり  
ワークショップ

平岡地区里あるきマップ  
《川原井版》



平成20年12月発行  
平岡地区景観まちづくりワークショップ  
平岡市都市計画課  
Tel. 0438-62-2111 (内線)

このマップは、袖ケ浦市の開催した「景観まちづくりワークショップ」で、参加者のみなさんと「里あるき」を行って作成したものです。意外に気づかない袖ケ浦の景観のよいところを載せていますので、ぜひお散歩してみてください。

■ワークショップの参加者  
石木茂世、堀川祥、竹元悦子、鶴岡正幸、榎本義夫、松永健一、三島幸夫、武川運誠、山口孝子、山口健昭、若本重男



川原井コース



■川原井神社  
境内に古くから祀られていた、千歳で祀りかたが異なることがあり、境内の景観は季節ごとに美しい。

■真光寺  
- 牧草畑に囲まれた静かな環境に真光寺の静けさを感じることができる。  
- 秋の風景は紅葉が美しい。  
- 境内には静かな環境に真光寺の静けさを感じることができる。  
- カシオオオヤブツツジなど、昔ながらの自然が感じられる。

■光明寺  
- 真光寺の境内の静けさを感じることができる。秋の風景は紅葉が美しい。  
- 境内には静かな環境に真光寺の静けさを感じることができる。  
- カシオオオヤブツツジなど、昔ながらの自然が感じられる。

■大月川源流の谷津田  
※大月川源流は200m以上を流れていますが、ここでは約100mです。

0 100m 500m

平岡地区里あるきマップ川原井版

景観まちづくり  
ワークショップ

平岡地区里あるきマップ  
《広域版》

こちらのマップは景観まちづくりワークショップにて、里あるきしたコース以外で参加者の皆さんにすぐれた景観があるところを挙げていただいたものです。  
田園景観あり、文化財あり、産の水の景観あり、とさまざまな表情を見せる平岡地区の魅力を確かめ、ぜひ歩いてみてください。

平成20年12月発行  
平岡地区景観まちづくりワークショップ  
平岡市都市計画課  
Tel. 0438-62-2111 (内線)

川と海はつながっている

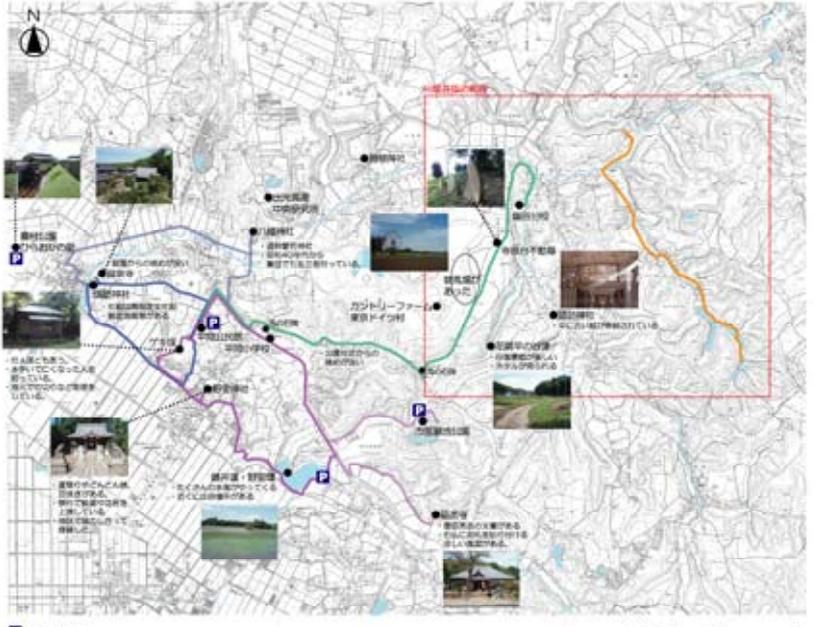
景観まちづくりワークショップで里あるきした大月川は、松川に合流します。松川は右のマップのように上野や永池を流ってやがて、小幡川に合流し、河口で平海を流って東京湾に注ぎます。自然を大きなスケールで感じながら歩いてみてはいかがでしょうか。



水越コース 野聖コース 花開草コース 川原井コース

水越コース：約1時間半  
野聖コース：約2時間  
花開草コース：約2時間  
川原井コース：約1時間半

※所要時間は200m単位を想定  
※あくまでも目安です



0 100m 500m 1km

平岡地区里あるきマップ広域版

## 第3章 今後の展開

昨年度に続き、今年度は昭和地区、平岡地区を対象に景観まちづくりワークショップをそれぞれ4回開催した。今年度の取り組みでは、長浦地区で挙げた「意識啓発の継続」「地域活動の良好事例への視察」「地域活動のPR」といった課題を継続的に検討するとともに、昭和地区、平岡地区ならではの課題や方向性が明らかとなった。来年度策定（予定）の袖ヶ浦市景観基本計画を含め、今後の取り組みに向けて、今年度の成果と継続して取り組むべき課題を以下に整理した。

### 3-1 ワークショップの成果

#### (1) 意識啓発について

長浦地区に引き続き、参加者が実際に地域を歩き、景観資源や地域の課題について自分の目で確かめ、主体的に議論を重ねた。また、議論の結果として「景観資源マップ（昭和・平岡）」「袖ヶ浦駅前線整備イメージ（昭和）」といった具体的な成果物を残すことができた。さらに、長浦地区から継続して5人の方が今年度の昭和・平岡地区ワークショップのいずれかに、そのうち2人の方が両方のワークショップに参加いただいた。このように、今年度も意識啓発の継続を着実に進めることができた。

#### (2) 地域活動について

実際に地域を歩くなかで、景観に関する地域活動を実践する活動に触れ、行動する重要性について認識を共有できた。昭和地区では富士見公園、率土神社、広域農道などにおいて、地域住民が定期的に草刈り、花植えるなどの活動を行っていることが分かった。また、平岡地区では川原井地区において、地域住民とお寺と都市部から訪れるボランティアが協力し、草刈りや農作業を行うことで、良好な田園景観が形成されていた。

長浦地区では他都市の良好事例を視察する重要性が示唆された。これに対して、今年度の取り組みではより身近な市内でこうした地域活動を実感することができた。

#### (3) PRについて

昭和地区では、参加者が自分の好きな景観を写真に撮ったものを集め、集まった写真を市民会館まつりにて掲示した。長浦地区では、景観まちづくりや景観資源についてさらなるPRの必要性が明らかになったが、今回の取り組みで、ひとつの具体策を実践することができた。

#### (4) 地域性について

今年度は傾向の異なる2地区をモデル地区として選定したため、それぞれの地域で地域活動の方法論が異なることが示唆された。

昭和地区では都市景観の中にあまり知られていない文化財や巨樹などの景観資源があることが分かり、これらをPRする必要性が議論された。また、袖ヶ浦駅前線のように新たな

景観形成が行われる場所で、景観を左右する意匠や場の活用法などについて、地域住民と協働による議論の可能性を示すことができた。

平岡地区では、既に景観に関する地域活動を行っている方に多く参加いただいた。草刈りや竹の伐採など、エネルギー事情の変化に伴い放置されてきた里山に関するものが多く、自然景観、農村景観に対して地域活動が果すべき役割が大きいことが伺える。地区や経験の異なる参加者がお互いの実践的な活動について意見交換することができ、平岡地区内のみならず、市内を広くつなぐネットワークへの展望が得られた。

## 3-2 今後の課題

### (1) 景観まちづくりPRの推進

景観資源マップにさまざまな景観資源、地域活動を掲載する場が生まれたが、参加者からは広報、PRの必要性を指摘する意見が多くあがった。広報、ホームページなど既存の媒体はもとより、景観資源マップを介して実際に歩いて景観に触れる人を増やすことが望ましい。また、昭和地区で行ったような良好な景観を顕彰する動きや、平岡地区で得られたような地域活動に携る人同士の連携をさらに推進も重要と考えられる。

### (2) 地域活動の促進

両地区で若干相違があるものの、地域活動の促進が重要であるとの意見が多く出された。

昭和地区においては、植栽の管理や道路整備に関することなど行政の施策に対する意見も見られたが、袖ヶ浦駅前線の空き店舗の活用や文化財のガイドボランティアの可能性など、市街地ならではの地域活動の提案が見られた。

平岡地区においては、竹林の拡大や残土処分など景観のみに留まらない問題について議論がなされ、景観に関する地域活動がこうした諸問題を解決する方策の入り口になりうることを示唆された。また、地域住民を巻き込んだ地域活動や、良好な景観形成に貢献した団体に対する助成の必要性も提言された。

このように、地域活動の促進が重要である点は地区を問わず共通しているが、具体的に地域活動が取り扱う対象は都市部、農村部で異なることが分かった。今後はこうした地域性を勘案しつつ、きめ細かく地域活動を推進する仕組みづくりが必要である。

## 3-3 次年度の取り組みについて

次年度は袖ヶ浦市の景観まちづくりのあり方を定める「袖ヶ浦市景観基本計画」の策定を予定している。策定に当たっては、これまでのワークショップの参加者にも議論に参加していただきながら、実効性のある計画になるよう、市内各地区の地域特性を踏まえた取り組みを進めていくものとする。